

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
学校教育目標 『自ら学び心豊かに たくましく生きる 児童の育成』 めざす子ども像 「すすんでまなぶ子」「おもいやりのある子」「最後までやりぬく子」 指導の重点 ◎確かな学力と学習意欲の向上 ◎コミュニケーション能力の育成 ◎人権を尊重した仲間作りと心の教育の推進 ◎特別支援教育の立場に立った授業づくり ◎地域学習の推進	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【全国学力状況調査の結果】 ○国語A・Bの正答率は県の平均を下回っていたが、「物語を読む能力」を問う問題の正答率は県の平均を大きく上回っていた。本校83.3%、県72.7% 「文の中で漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」問題の正答率が低い。 ○算数A・Bの正答率は県平均を下回っていたが、「除法で表すことができる二つの数量関係」を問う問題の正答率は県の正答率を大きく上回っていた。本校66.7%、県56.4% 「空間の中にあるものの位置を表現することができるかどうかをみる」問題の正答率が低い。 ○理科の正答率は県平均を下回っていた。 【岡山県学力状況調査の結果】 ○5年の国語の正答率は県平均を下回っているが、活用問題の正答率は県の平均を上回っている。 ○5年の算数の正答率は県の平均よりかなり高い。 ○4年の国語と算数の正答率は県の平均よりかなり高い。 ○3年の国語の正答率は県の平均を下回っているが、「漢字を書く」問題の正答率は県の平均を大きく上回っている。本校85.2%、県77.3% ○3年の算数の正答率は県の平均を上回っている。	【全国学習状況調査の結果】 ○家庭学習の時間(平日1日当たり)は1時間以上の割合が県平均に比べてかなり高い。 ○読書の時間(平日1日当たり)は30分以上の割合が県平均に比べてかなり高い。 ○テレビ等の視聴時間は県平均より少ない。 ○あいさつは、すべての児童がよくできている。

成果	課題
○プリント学習等の繰り返しにより、漢字や計算等、基礎的・基本的な学習内容が定着してきた。 ○自分の言葉で表現する活動を意識的に取り入れたことで、自分の考えを持ち、表現できる力が伸びてきている。 ○学習規律の徹底により、授業での集中力が高まった。 ○メディアコントロール等、PTAと連携した取組の成果が見られる。	○家庭学習の時間はかなり多いが、自主学習の質を高める必要がある。 ○自己肯定感、自己有用感の育成が必要。 ○理科で基礎的・基本的な学習内容が定着していない。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎学力の定着	各学期末	勉強が楽しい。よくわかる。児童アンケート 80%以上。	◇朝学習では漢字と短文作りの学習する。チャレンジタイムでは、算数の学習を個々の習熟に応じて行う。	達成率82% 高学年になると学習内容が難しいと感じている児童の割合が高い。	B			
支持的風土の確立	各学期末	何でも質問できる。発表が好きだ。児童アンケート 80%以上。	◇ペア学習やグループ学習を活発に行うために、学級に支持的風土作りを積極的に行う。その際「いいところ見つけ」を学習だけでなく様々な活動の中に取り入れていく。	達成率66% 低学年の達成率はとても高いが高学年になるほど低くなっている。	C			
家庭学習の定着と充実	各学期末	児童全員が毎日、自主学習ノートに取り組む。達成率80%。	◇児童がやる気を持って自主学習に取り組めるよう、一人一人の習熟の度合いに応じた指導と支援を行う。	達成率63% 高学年の達成率は高いが低学年は低い。	C			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○中学校区での、学習規律の徹底。○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○メディアコントロールの取り組み○家庭学習の充実(自主学習ノート)○読書活動の推進 ○書く活動の充実(要旨をまとめる。自分の言葉で学習のまとめをする等)	○家庭のルール(メディアコントロール等の取り組み等)を決め、勉強時間が確保できるようPTAと連携して取り組む。 ○スマートフォンの使い方について学級懇談で取り上げる。 ○放課後の補充学習を週2回行い、基礎学力の向上と定着をはかれるようにする。 ○月1回親子読書の時間を設け、親子で触れ合う時間を設定する。